

2022年3月期 第3四半期決算概要

2022年2月7日

会社名 アニコム損害保険株式会社

URL <https://www.anicom-sompo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 野田 真吾

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 大久保 弘二

TEL (03) 5348-3777

1. 2022年3月期第3四半期の業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	正味収入保険料		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	35,263	9.5	1,895	35.7	1,339	77.1
2021年3月期第3四半期	32,192	11.5	1,396	18.3	756	△7.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	6,572 19	—
2021年3月期第3四半期	3,711 28	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	44,761	19,983	44.6
2021年3月期	42,719	18,728	43.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 19,983万円 2021年3月期 18,728百万円

2. 注記事項

(1) 会計方針の変更、会計上の見積りの変更、修正再表示

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う変更 | : 有 |
| ② ①以外の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(2) 発行済株式数(普通株式)

- | | | | | |
|---------------------|------------|----------|------------|----------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2022年3月期3Q | 203,740株 | 2021年3月期 | 203,740株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年3月期3Q | -株 | 2021年3月期 | -株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計期間) | 2022年3月期3Q | 203,740株 | 2021年3月期3Q | 203,740株 |

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度末 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間末 (2021年12月31日)
資産の部		
現金及び預貯金	23,982	21,554
有価証券	10,794	14,962
貸付金	1,026	969
有形固定資産	1,619	1,916
無形固定資産	781	823
その他資産	4,218	4,409
繰延税金資産	800	610
貸倒引当金	△503	△485
資産の部合計	42,719	44,761
負債の部		
保険契約準備金	19,626	20,653
支払備金	2,539	2,786
責任準備金	17,087	17,866
その他負債	4,107	3,923
賞与引当金	177	107
特別法上の準備金	80	93
価格変動準備金	80	93
負債の部合計	23,991	24,778
純資産の部		
株主資本	18,658	19,895
資本金	6,550	6,550
資本剰余金	3,664	3,664
利益剰余金	8,444	9,681
評価・換算差額等	69	87
その他有価証券評価差額金	69	87
純資産の部合計	18,728	19,983
負債及び純資産の部合計	42,719	44,761

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
経常収益	32,568	35,892
保険引受収益	32,192	35,263
(うち正味収入保険料)	32,192	35,263
資産運用収益	368	562
(うち利息及び配当金収入)	193	246
(うち有価証券売却益)	174	313
その他経常収益	7	66
経常費用	31,171	33,997
保険引受費用	22,760	25,040
(うち正味支払保険金)	17,344	19,186
(うち損害調査費)	832	832
(うち諸手数料及び集金費)	3,397	3,994
(うち支払備金繰入額)	260	247
(うち責任準備金繰入額)	924	779
資産運用費用	5	61
営業費及び一般管理費	8,299	8,881
その他経常費用	105	13
(うち支払利息)	0	0
経常利益	1,396	1,895
特別利益	0	-
特別損失	297	17
税引前四半期純利益	1,100	1,877
法人税及び住民税	353	355
法人税等調整額	△8	183
法人税等合計	344	538
四半期純利益	756	1,339

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があつた場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 2022年3月期 第3四半期損益状況

(単位：百万円)

区分		前第3四半期累計期間 自2020年4月1日 至2020年12月31日	当第3四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年12月31日
経 常 損 益	保 険 引 受 収 益	32,192	35,263
	(うち正味収入保険料)	(32,192)	(35,263)
	保 険 引 受 費 用	22,760	25,040
	(うち正味支払保険金)	(17,344)	(19,186)
	(うち損害調査費)	(832)	(832)
	(うち諸手数料及び集金費)	(3,397)	(3,994)
	(うち支払備金繰入額)	(260)	(247)
	(うち責任準備金繰入額)	(924)	(779)
	資 産 運 用 収 益	368	562
	(うち利息及び配当金収入)	(193)	(246)
	(うち有価証券売却益)	(174)	(313)
	資 産 運 用 費 用	5	61
	営 業 費 及 び 一 般 管 理 費	8,299	8,881
	そ の 他 経 常 損 益	△98	52
経 常 利 益		1,396	1,895
特 別 損 益	特 別 利 益	0	—
	特 別 損 失	297	17
	特 別 損 益	△296	△17
税 引 前 四 半 期 純 利 益		1,100	1,877
法 人 税 及 び 住 民 税		353	355
法 人 税 等 調 整 額		△8	183
法 人 税 等 合 計		344	538
四 半 期 純 利 益		756	1,339
諸 比 率	正 味 損 害 率	56.5	56.8
	正 味 事 業 費 率	36.2	36.3

(2)種目別保険料・保険金

保険引受の実績は以下のとおりであります。

① 元受正味保険料（含む収入積立保険料）

区分	前第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (%)
ペット保険	32,192	100.0	11.5	35,263	100.0	9.5
合計 (うち収入積立保険料)	32,192 (-)	100.0 (-)	11.5 (-)	35,263 (-)	100.0 (-)	9.5 (-)

(注) 元受正味保険料（含む収入積立保険料）とは、元受保険料から元受解約返戻金及び元受その他返戻金を控除したものであります。（積立型保険の積立保険料を含む）

② 正味収入保険料

区分	前第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (%)
ペット保険	32,192	100.0	11.5	35,263	100.0	9.5
合計 (うち収入積立保険料)	32,192 (-)	100.0 (-)	11.5 (-)	35,263 (-)	100.0 (-)	9.5 (-)

③ 正味支払保険金

区分	前第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)			当第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年増減 (%)
ペット保険	17,344	100.0	14.4	19,186	100.0	10.6
合計	17,344	100.0	14.4	19,186	100.0	10.6

(3) 有価証券関係

①満期保有目的の債券

該当なし

②その他有価証券

	前第3四半期会計期間末 (2020年12月31日)			当第3四半期会計期間末 (2021年12月31日)		
	四半期貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)	四半期貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)
株式	94	120	△25	8	33	24
その他	11,139	11,138	0	14,478	14,574	96
合計	11,233	11,258	△25	14,486	14,607	120

(4) 単体ソルベンシー・マージン比率

「単体ソルベンシー・マージン比率」は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (2021年3月31日現在) (百万円)	当第3四半期会計期間末 (2021年12月31日現在) (百万円)
(A) ソルベンシー・マージン総額	23,934	25,404
資本金又は基金等	18,658	19,895
価格変動準備金	80	93
危険準備金	—	—
異常危険準備金	1,407	1,130
一般貸倒引当金	472	472
その他有価証券の評価差額(税効果控除前)	86	108
土地の含み損益	37	30
配当準備金未割当部分	—	—
持込資本金等	—	—
繰延税金資産の不算入額	—	—
税効果相当額	3,190	3,672
負債性資本調達手段等、保険料積立金等余剰部分 控除項目	—	—
(B) リスクの合計額 $\sqrt{\{(R5+R8)^2+(R2+R3)^2\}+R4+R6}$	11,669	12,567
一般保険リスク(R5)	11,339	12,181
第三分野保険の保険リスク(R8)	—	—
予定利率リスク(R2)	—	—
資産運用リスク(R3)	1,318	1,638
巨大災害リスク(R6)	—	—
経営管理リスク(R4)	253	276
(C) ソルベンシー・マージン比率 [(A)/{(B)×1/2}]×100	410.2%	404.2%

(注) 上記の金額及び数値は、保険業法施行規則第86条及び第87条並びに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

<単体ソルベンシー・マージン比率>

- ・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。
- ・こうした「通常の予測を超える危険」を示す「単体リスクの合計額」(上表の(B))に対する「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(すなわち単体ソルベンシー・マージン総額:上表の(A))の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「単体ソルベンシー・マージン比率」(上表の(C))であります。
- ・「通常の予測を超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額をいいます。
 - ①保険引受上の危険 : 保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険(巨大災害に係る(一般保険リスク)危険を除く)
 - (第三分野保険の保険リスク)
 - ②予定利率上の危険 : 積立型保険について、実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険(予定利率リスク)
 - ③資産運用上の危険 : 保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る危険等(資産運用リスク)
 - ④経営管理上の危険 : 業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記①～③及び⑤以外のもの(経営管理リスク)
 - ⑤巨大災害に係る危険 : 通常の予測を超える巨大災害(関東大震災や伊勢湾台風相当)により発生し得る危険(巨大災害リスク)
- ・「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(単体ソルベンシー・マージン総額)とは、損害保険会社の純資産(社外流出予定額等を除く)、諸準備金(価格変動準備金・異常危険準備金等)、土地の含み益の一部等の総額であります。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標のひとつであります。その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。